

令和6年度学校評価アンケートまとめ

柏市立松葉第一小学校

学校教育目標 「自分で考え、判断し、行動する児童の育成」

- 夢を持ち、自律して学び行動し、社会に貢献できる人を育てる

重点目標 (1) 全教職員が全児童の担任 & 全教職員が学校経営に参画(チーム松一)
(2) 「よい子の約束」を中心とした生徒指導
(3) 学ぶ主体は子ども

1 アンケート項目及び結果について

児童・保護者・職員に対して実施しました質問項目とその結果は別紙のとおりです。
(関連する質問項目ごとに整理し、肯定的な回答について比較)

2 重点目標に関する状況について

(1) 全教職員が全児童の担任 & 全教職員が学校経営に参画(チーム松一)

生徒指導部会や学年主任会、職員会議で各学年の様子や気になる児童についての対応を話し合い、対応を共有しました。また、教科担任制や授業交換、専科授業、クラブ、委員会活動で多くの教職員が児童への指導に携われるような体制をつくりました。その結果として、別紙アンケート集計結果の「1 学校は楽しいか」、「4 子供は感謝の言葉を伝えられるか」、「5 ルールやマナーを守って生活しているか」、「6 友達と仲良くしているか」、「10 学校は、日頃から子供に自分で考え方正しい判断をするような指導をしているか」については、児童・教職員・保護者とも肯定的な評価が多かったです。担任一人で児童を指導するのではなく、多くの教職員が児童とかかわり、児童を理解し、その場その場で状況に応じた指導をした結果と思われます。

(2) 「よい子の約束」を中心とした生徒指導について

本校では、基本的な生活習慣を共通認識し徹底するための手引きとして、「よい子の約束」を活用して指導にあたってきました。疑義や新たな問題が生じた場合には、生徒指導部会を中心に随時見直しや共通理解を図ってきました。各教室には「よい子のやくそく」の概要版を掲示し、職員の経験に左右されず、全学級が同一の視点で指導に当たれるように取り組んできました。

学校評価アンケート(肯定的評価)の「6 友達と仲よくできているか」では、児童 96% 保護者 96% 職員 91% であり、3 者ともに 9 割以上の回答が見られ、良好な友人関係を構築している児童が非常に多い状況があります。「5 学校のきまりを守って生活しているか」の設問でも、児童 93% 保護者 90% 職員 91% であり、秩序ある学校生活ができていると考えられます。

また、「29 悩み事や相談を聞いてくれるか(対応しているか)」では、児童は 79% と昨年度とほぼ同等でしたが、保護者は昨年の 81% から 93% と大きな伸びがありました。放課後、積極的に情報の共有を図ろうと職員が家庭に電話している姿が多くみられたのが、この数字につながったのかと思われます。

しかし、「7 自分の考えを周りの友達に伝えていますか」では、児童は 79% ですが、保護者は 67%、職員は 86% と乖離しています。授業の中だけでなく、日常生活でも自分の考えが伝えられるように指導していくことが課題となりました。

今後は、日常の生活に加えて、各種アンケート等を活用しながら、これまで以上に児童の様子を見取り、一人一人に丁寧に対応していくことが必要となります。

(3) 学ぶ主体は子どもについて

一人一人の児童に応じたきめ細やかな指導のために、県費職員だけではなく、市費職員（低学年支援教員・教育支援員・理科教育支援員・外国語活動支援員・ALT・図書館指導員・スクールカウンセラー・学級経営アドバイザー・事務補助）と連携して取り組んできました。

また、職員自身の授業力向上を目的として、全職員が参加し、「自分の考えを表現し、進んで学び合う子どもの育成－算数科におけるわかるできる喜びを感じられる対話的学習を目指して－」をテーマに校内研修にも取り組んできました。特に、今年度も、国立教育政策研究所より講師を招聘し、より専門的な視点から算数科の授業づくりについて研修を重ねていきました。

学校評価アンケート（肯定的評価）の「8 よく考えて学習できているか」では、児童 89% 保護者 79% 職員 86% であり、多くの児童が意欲的に学習に取り組んでいる姿がみられました。また、「16 ICT を取り入れた授業を行っているか」でも、児童 92% 保護者 90% 職員 91% であり、児童や職員の積極的な活用が進んでいます。さらに、「28 保護者や地域と連携して教育活動を進めているか」では、保護者は昨年度の 73% から 80% と改善が見られました。青少協や松一小見守り隊等の地域人材の活用が積極的に進んだ結果だと思われます

また、「17 工夫してわかりやすく学習を教えているか」では、児童の肯定的評価が 94% であるにもかかわらず、職員が 76% と低調でした。研修を生かして指導法の工夫改善を図っているはずですが、指導方法が他に転用できなかったり、指導のノウハウを次の単元で生かしきれなかったりしているのかと想像できます。何れにしても、若手教員の育成は今後の喫緊の課題として受け止め、改善を図っていく必要があります。

今後は、保護者や地域と連携した学習の充実も進め、本校教育活動の周知や広報をさらに行っていくことが必要不可欠であるといえます。

3 保護者からの「よりよい学校にするための提案」について

主な提案内容は以下のとおりでした。御意見をもとに、次年度の教育課程や職員の指導改善につなげ、より充実した教育活動が展開できるよう検討していきます。

- 学校行事の実施内容・実施方法
- 児童間トラブルの対応
- タブレット端末の利用方法
- 職員の指導方法
- 学校からの情報伝達
- 悩みや心配事を抱える児童の相談体制と保護者との連携

4 次年度に向けた改善について

- (1) 今年度同様「全職員が全児童の担任」という意識で教育活動を継続していきます。
そのためには、学年間だけでなく、学校全体で児童の情報を共有し、個に応じた適切な生徒指導を生徒指導主任や教育相談担当職員等が中心となり進めています。
- (2) 教育課程の見直しを行います。特に時間割については、現在学校を取り巻く様々な要因を踏まえて大幅に見直します。月曜日の下校時間の繰り上げ、サマータイムの導入、会議の日の日課変更等を行います。これにより、児童の負担を減らし、職員の授業準備や研修に充てる時間を確保し、よりよい教育が提供できるようにします。
- (3) 校内研修及び市主催研修等の活用により、職員の基礎的な指導力（教科指導・生徒指導・学級経営）の向上を図ります。また、OJT の実施や若年層研修をさらに活性化させ、若手教員の指導力向上に力を入れていきます。
- (4) 学校ホームページや学校だより、文書配信アプリ等の活用により、保護者に対して確実な連絡と積極的な広報を進めます。
- (5) 保護者や地域ボランティア、柏警察、柏市教育委員会の協力をもとに、登下校の安全確保や学校施設等の環境整備を図っていきます。
- (6) 松葉地区 3 校（松葉一小・松葉二小・松葉中）コミュニティ・スクールの活動をもとに、

保護者や地域との連携を強固なものにし、地域全体で地域の児童を育てるため、協働的な取組をさらに進めています。特にふるさと協議会や青少年育成協議会との連携を深め、地域教材や地域人材を活用した授業を実施できるようにしていきます。